



Sun SPARC® Enterprise M8000/M9000 サーバ プロダクトノート

XCP 1050 版

Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

Part No. 820-4938-10
2008 年 4 月, Revision A

コメントの送付: <http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

Copyright 2008 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. および富士通株式会社 〒 211-8588 神奈川県川崎市中原区上小田中 4-1-1, Japan. All rights reserved.

Sun Microsystems, Inc. および富士通株式会社は、それぞれ本書に記述されている製品および技術に関する知的所有権を所有または管理しています。これらの製品、技術、および本書は、著作権法、特許権などの知的所有権に関する法律および国際条約により保護されています。これらの製品、技術、および本書に対して Sun Microsystems, Inc. および富士通株式会社が有する知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付随する製品および技術は、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。富士通株式会社と Sun Microsystems, Inc. およびそのライセンサーの書面による事前の許可なく、このような製品または技術および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。本書の提供は、明示的であるか黙示的であるかを問わず、本製品またはそれに付随する技術に関するいかなる権利またはライセンスを付与するものでもありません。本書は、富士通株式会社または Sun Microsystems, Inc. の一部、あるいはそのいずれかの関連会社のいかなる種類の義務を含むものでも示すものでもありません。

本書および本書に記述されている製品および技術には、ソフトウェアおよびフォント技術を含む第三者の知的財産が含まれている場合があります。これらの知的財産は、著作権法により保護されているか、または提供者から富士通株式会社および/または Sun Microsystems, Inc. へライセンスが付与されているか、あるいはその両方です。

GPL または LGPL が適用されたソースコードの複製は、GPL または LGPL の規約に従い、該当する場合に、お客様からのお申し込みに応じて入手可能です。富士通株式会社または Sun Microsystems, Inc. にお問い合わせください。

この配布には、第三者が開発した構成要素が含まれている可能性があります。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに由来しています。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴ、Java、Netra、Solaris、Sun Ray、Answerbook2、docs.sun.com、OpenBoot、および Sun Fire は、米国およびその他の国における Sun Microsystems, Inc. の商標または登録商標です。

富士通および富士通のロゴマークは、富士通株式会社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、Sun Microsystems, Inc. が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

SPARC64 は、Fujitsu Microelectronics, Inc. および富士通株式会社が SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の商標です。

OPEN LOOK および Sun™ Graphical User Interface は、Sun Microsystems, Inc. が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。Sun Microsystems, Inc. は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザー



Please
Recycle



Adobe PostScript

インタフェースの概念の研究開発における Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。Sun Microsystems, Inc. は Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは、OPEN LOOK GUI を実装しているかまたは Sun の書面によるライセンス契約を満たす Sun Microsystems, Inc. のライセンス実施権者にも適用されます。

United States Government Rights - Commercial use. U.S. Government users are subject to the standard government user license agreements of Sun Microsystems, Inc. and Fujitsu Limited and the applicable provisions of the FAR and its supplements.

免責条項：本書または本書に記述されている製品や技術に関して富士通株式会社、Sun Microsystems, Inc. またはそのいずれかの関連会社が行う保証は、製品または技術の提供に適用されるライセンス契約で明示的に規定されている保証に限ります。このような契約で明示的に規定された保証を除き、富士通株式会社、Sun Microsystems, Inc. およびそのいずれかの関連会社は、製品、技術、または本書に関して、明示、黙示を問わず、いかなる種類の保証も行いません。これらの製品、技術、または本書は、現状のまま提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も、かかる免責が法的に無効とされた場合を除き、行われないものとします。このような契約で明示的に規定されていないかぎり、富士通株式会社、Sun Microsystems, Inc. またはそのいずれかの関連会社は、いかなる法理論のもと第三者に対しても、その収益の損失、有用性またはデータに関する損失、あるいは業務の中断について、あるいは間接的損害、特別損害、付随的損害、または結果的損害について、そのような損害の可能性が示唆されていた場合であっても、適用される法律が許容する範囲内で、いかなる責任も負いません。

本書は、「現状のまま」提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も、かかる免責が法的に無効とされた場合を除き、行われないものとします。

目次

はじめに	vii
技術サポート	vii
ソフトウェアリソース	vii
最新のパッチの入手	viii
smpatch CLI を使用したパッチの入手	viii
Update Manager GUI を使用したパッチの入手	x
追加情報	xii
マニュアルへのアクセス	xiii
コメントをお寄せください	xiii
SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバプロダクトノート	1
サポートされているファームウェアおよびソフトウェアのバージョン	1
Solaris パッチ情報	2
Solaris パッチのインストール	2
既知の問題	3
一般的な機能の問題と制限	3
ハードウェアのインストレーションおよびサービスに関する問題	4
特定の問題と回避方法	4
ソフトウェアおよびファームウェアに関する問題	5
XCP に関する特定の問題と回避方法	5

Solaris に関する特定の問題と回避方法	7
ターゲットボードのカーネルメモリの識別	14
XCP 1050 へのアップグレードの準備	15
XCP 1050 へのアップグレード	17
WAN ブートサーバからのブート	22
getflashimage の簡易版 man page	22
ソフトウェアマニュアルの変更予定	23

はじめに

本書では、マニュアルセットを発行したあとに既知となった、Sun SPARC® Enterprise M8000/M9000 サーバのハードウェア、ソフトウェア、およびマニュアルに関する重要な最新情報について説明します。

技術サポート

Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバのマニュアルに記載されていない技術的な質問または問題については、購入先に問い合わせてください。

米国またはカナダのユーザーの場合は、1-800-USA-4SUN (1-800-872-4786) に問い合わせてください。

ソフトウェアリソース

Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバには、Solaris™ オペレーティングシステムおよび Sun Java™ Enterprise System ソフトウェアがプリインストールされています。

最新のパッチの入手

使用しているシステムには、Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ用の Solaris 必須パッチがプリインストールされているはずですが、パッチの一覧については、2ページの「Solarisパッチ情報」を参照してください。

注 – Sun Connection Update Manager を使用する前に、パッチ [123003-03](#) および [124171-06](#) をシステムにインストールする必要があります。これらのパッチは、必要に応じて <http://sunsolve.sun.com/> からダウンロードできます。

Sun Connection Update Manager を使用して、必要に応じてパッチを再インストールしたり、最新の必須パッチセットでシステムを更新することができます。Sun Connection Update Manager に関する情報は、次の Web サイトにある『Sun Update Connection System 1.0.8 管理ガイド』で確認できます。

<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-7283>

使用しているシステムを登録し、Sun Connection Update Manager を使用して、最新の Solaris OS パッチを入手するには、2つのオプションを使用することができます。ダウンロードしたパッチには、インストール情報および README ファイルが含まれています。

- viiiページの「[smpatch CLI を使用したパッチの入手](#)」
- xページの「[Update Manager GUI を使用したパッチの入手](#)」

smpatch CLI を使用したパッチの入手

1. `/usr/lib/breg/data/RegistrationProfile.properties` ファイルを `/tmp` ディレクトリにコピーします。
2. `/tmp/RegistrationProfile.properties` ファイルを編集して、ユーザー名、パスワード、および必要に応じてネットワークプロキシを追加します。
3. 次のコマンドを入力して、システムを登録します。

```
# sconadm register -a -r /tmp/RegistrationProfile.properties
```

4. 次のコマンドを入力して、使用しているシステムに適切なパッチを入手します。

```
# smpatch set patchpro.patchset=sem4k5k8k9k
```

5. 次のように、各パッチをインストールします。
パッチは、Sun Connection Update Manager を使用してダウンロードできます。

- a. 次のように入力して、`/var/sadm/spool` ディレクトリにパッチをダウンロードします。

```
# smpatch update -i xxxxxx-xx
```

- b. 次のように入力して、パッチを解凍します。

```
# cd /var/sadm/spool
# unzip xxxxxx-xx.jar
```

- c. `/var/sadm/spool/xxxxxx-xx/README.xxxxxx-xx` ファイルに記載されている特有のインストール手順に従って、パッチをインストールします。

6. パッチのインストール後、システムの再起動が必要になる場合があります。

- 再起動が不要な場合は、[手順 7](#)に進みます。
- システムの再起動が必要な場合は、`init` コマンドまたは `shutdown` コマンドのいずれかを使用してください。

```
# init 6
```

```
# shutdown -i6
```

注 `-reboot` コマンドでは、再起動を必要とするパッチのインストールが完了しません。

7. 次のコマンドを入力して、インストールするパッチの一覧を表示します。

```
# smpatch analyse
```

8. 次のコマンドを入力して、パッチをダウンロードおよびインストールします。

```
# smpatch update
```

9. いずれかのパッチでシステムの再起動が必要な場合は、[手順 6](#)を参照します。

これでパッチのインストールが完了しました。

Update Manager GUI を使用したパッチの入手

1. `/usr/lib/breg/data/RegistrationProfile.properties` ファイルを `/tmp` ディレクトリにコピーします。
2. `/tmp/RegistrationProfile.properties` ファイルを編集して、ユーザー名、パスワード、および必要に応じてネットワークプロキシを追加します。
3. 次のコマンドを入力して、システムを登録します。

```
# sconadm register -a -r /tmp/RegistrationProfile.properties
```

4. Update Manager を起動します。

```
# /usr/bin/updatesmanager
```

5. Update Manager の「Available」タブで、ドロップダウンメニューを開き、Update Collection から「Sun SPARC(R) Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 Servers」を選択します。

Update Manager によって、必要となるパッチを判断するためにシステムが分析されます。

6. パッチ `xxxxxx-xx` が推奨される場合、パッチ ID の左にあるボックスをクリックしてこのパッチ ID を選択してから、「Install」ボタンをクリックします。

パッチが `/var/sadm/spool` にダウンロードされます。

7. 次のように入力して、処理を続けます。

```
# cd /var/sadm/spool
# unzip xxxxxx-xx.jar
```

8. `/var/sadm/spool/xxxxxx-xx/README.xxxxxx-xx` ファイルに記載されているインストール手順を実行します。

9. `xxxxxx-xx` のインストール後、システムの再起動が必要になる場合があります。

再起動に関する Update Manager での指示に従うか、次のように `shutdown` コマンドまたは `init` コマンドを使用します。

```
# init 6
```

```
# shutdown -i6
```

注 – Update Manager、init コマンド、または shutdown コマンドのいずれかを使用してください。reboot コマンドでは、再起動を必要とするパッチのインストールが完了しません。

10. Update Manager をふたたび起動して、Enterprise Server コレクションを選択します。
11. Update Manager が新たな分析を自動的に開始しない場合は、「Check for Updates」ボタンをクリックします。
12. パッチ ID の左にあるボックスをチェックして、一覧に表示されているパッチのいずれかを選択します。
13. 「Install」ボタンをクリックします。
Update Manager によって、パッチがダウンロードおよびインストールされます。
14. いずれかのパッチでシステムの再起動が必要な場合は、[手順 9](#) を参照します。
これでパッチのインストールが完了しました。

追加情報

詳細情報については、最新の『Solaris 10 Sun ハードウェアマニュアル』に加えて、使用している Solaris マニュアルとともに提供されるリリースノートを参照してください。また、マニュアル Web ページにアクセスして、本書を補足する追加のマニュアルがないかどうかを確認してください。最新情報は、次の URL から入手できます。

<http://jp.sun.com/documentation/>

マニュアルへのアクセス

Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ サーバの設置、管理、および使用に関する手順は、Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ サーバのマニュアルセットに記載されています。次の Web サイトから、マニュアルセット全体をダウンロードして入手できます。

<http://jp.sun.com/documentation/>

注 – 本書に記載されている情報は、Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ サーバのマニュアルセットの情報よりも優先されます。

Solaris オペレーティングシステム (Solaris OS) のマニュアルは、次の URL から入手できます。

<http://jp.sun.com/documentation/>

コメントをお寄せください

マニュアルの品質改善のため、お客様からのご意見およびご要望をお待ちしております。コメントは下記よりお送りください。

<http://www.sun.com/hwdocs/feedback/>

ご意見をお寄せいただく際には、下記のタイトルと Part No. を記載してください。

『Sun SPARC Enterprise M8000/M9000サーバプロダクトノート XCP 1050版』、
Part No. C120-Exxx-01

SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバプロダクトノート

本書は、次の項で構成されています。

- サポートされているファームウェアおよびソフトウェアのバージョン
- Solaris パッチ情報
- 既知の問題
- ハードウェアのインストレーションおよびサービスに関する問題
- ソフトウェアおよびファームウェアに関する問題
- ソフトウェアマニュアルの変更予定

サポートされているファームウェアおよびソフトウェアのバージョン

本リリースでは、次のファームウェアとソフトウェアのバージョンがサポートされています。

- サーバには、XSCF Control Package (XCP) 1050 以降がプレインストールされています。
- これらのサーバをサポートしている Solaris OS は、Solaris 10 11/06 OS 以降です。
- これらのサーバも Solaris 10 8/07 OS をサポートしています。



注意 -CR ID 6534471: 通常の操作中にシステムがパニックまたはトラップすることがあります。このバグは Solaris 10 8/07 では修正済みです。システムで現在 Solaris 10 11/06 を実行している場合、Solaris 10 8/07 にアップグレードするか、パッチ [120011-08](#) を適用できます。この CR は、7 ページの「[Solaris に関する特定の問題と回避方法](#)」の項に示されています。

- 今回リリースされる XCP は、Sun PCI ボックスをサポートしています。

- 今回リリースされる XCP は、Capacity-On-Demand (COD) 機能をサポートしています。

注 - 今後追加される COD 機能を使用するためのライセンス (RTU) に対応するには、すべての SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバを XCP 1050 にアップグレードする必要があります。最寄の営業担当者にお問い合わせください。

ネットワーク上の Solaris WAN ブートサーバから SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバをブートする場合は、実行可能ファイル wanboot をアップグレードする必要があります。詳細については、22 ページの「WAN ブートサーバからのブート」を参照してください。

注 - サポートされているファームウェアとソフトウェアのバージョンに関する最新情報については、vii ページの「ソフトウェアリソース」を参照してください。

Solaris パッチ情報

次に示すパッチは、Solaris 10 11/06 OS を実行する SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバに必須です。Solaris 10 8/07 OS を実行するサーバの場合、これらのパッチは不要です。

注 - パッチの下 2 桁は、リビジョンレベルを示しています。SunSolve.Sun.COM で最新のパッチリビジョンを確認してください。最新パッチを探す方法については、vii ページの「ソフトウェアリソース」を参照してください。

Solaris パッチのインストール

- 次の順序でパッチをインストールします。

1. [118833-36](#)

次の [125100-08](#) をインストールする前に、ドメインをリブートしてください。

2. [125100-08](#)

少なくともバージョン [125100-08](#) はインストールしてください。その他のパッチ要件の一覧については、[125100-08README](#) ファイルを参照してください。

3. [123839-07](#)

4. [120068-03](#)

5. [125424-01](#)

6. [118918-24](#)

7. [120222-21](#)

8. [125127-01](#)

次の [125670-02](#) をインストールする前に、ドメインをリブートしてください。

9. [125670-02](#)

10. [125166-05](#)

既知の問題

この項では、本リリース時における既知のハードウェアおよびソフトウェアの問題について説明します。

一般的な機能の問題と制限



注意 -Dynamic Reconfiguration (DR) とホットプラグの問題については、[表 3, 7 ページの「Solaris に関する特定の問題と回避方法」](#)を参照してください。

- 1027A-Z/X1027A-Z, PCIe Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP カードの場合、次の制限事項があります。
 - 使用できるカードはドメインあたり最大 2 枚
 - これらのカードを PCI ボックスで使用しない
- 4447A-Z/X4447A-Z, PCIe Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP カードの場合、次の制限事項があります。
 - 使用できるカードは I/O ポートあたり最大 2 枚
 - 1 台の SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバで使用できるカードは最大 8 枚
- CD-RW/DVD-RW ドライブユニットとテープドライブユニットは、同時に使用しないでください。
- 今回リリースされる XCP の XSCF Web ブラウザインターフェースは(ブラウザインターフェース (BUI) と呼ばれる)、COD 機能も PCI ボックスマネージャ機能もサポートしません。

- 次のユーザーアカウント名は、XSCF ファームウェアによりシステム用として予約されているため、使用できません。root, bin, daemon, adm, operator, nobody, sshd, rpc, rpcuser, ldap, apache, ntp, admin、および default.

ハードウェアのインストールおよびサービスに関する問題

ここでは、ハードウェアに関する問題とその回避方法について説明します。

特定の問題と回避方法

表 1 に既知のハードウェアの問題とそれに対する有効な回避方法を示します。

表 1 特定の問題と回避方法

CR ID	変更箇所	回避方法
6433420	ブート中、ドメインコンソールが Mailbox timeout または IOCB interrupt timeout error を表示することがあります。	OBP (OK) プロンプトから reset-all コマンドを発行し、リブートしてください。
6488846	ブート中、ドメインコンソールが SG(X)PCI2SCSIU320-Z SCSI コントローラ I/O カードの checksum error を表示することがあります。	最新のコントローラカードファームウェアが提供されているかご確認ください。
6557379	電源ケーブルは、二系統受電オプションなしの一系統受電サーバでは、冗長化されていません。	一系統受電のサーバでは、すべての電源ケーブルは常時接続され、電源投入されていなければなりません。

ソフトウェアおよびファームウェアに関する問題

ここでは、特定のソフトウェアとファームウェアに関する問題とその回避方法について説明します。

XCP に関する特定の問題と回避方法

表 2 に XCP の既知の問題と、これに対する有効な回避方法を示します。

表 2 XCP に関する特定の問題と回避方法

CR ID	変更箇所	回避方法
6529635	showdomainstatus -a コマンドではドメインステータスが Powered Off と表示されますが、showboards -a コマンドではドメインがテスト中と表示されます。	showboards コマンドを使用し、ドメインの電源状態を確認してください。 showdomainstatus コマンドでは、正しいステータスを表示するのに、より時間がかかります。
6565422	showarchiving の Latest communication フィールドが定期的に更新されません。	アーカイブの有効 / 無効を切り替えると、showarchiving 出力の Latest communication フィールドが更新されます。
6573729	snapshot CLI がライトプロテクトのかかった USB スティックに書き込みをしようとすると、コンソールに多数の I/O エラーが表示されません。	snapshot による収集ではライトプロテクトのかかった USB デバイスを使用しないでください。
6575425	通常、待機 SCF 上で SCF CLI が実行されると「Permission denied」が表示されますが、これが表示されずに、他のエラーが通知されます。	待機 XSCF 上で実行できる CLI は下記に限定されています。snapshot、switchscf 待機 XSCF 上ではそれ以外の CLI を実行しないでください。
6577801	不正なドメイン状態が報告されます。コマンド sendbreak がドメインに発行された後、ドメインが「ok」プロンプトになると、showdomainstatus によりドメイン状態が「Running」と表示されます。	回避方法はありません。sendbreak の使用による副作用です。
6583053	XCP 1040 と 1041 でセットアップに誤りがあると、後続の XCP バージョンで引継ぎ IP が機能しないことがあります。	15 ページの「 XCP 1050 へのアップグレードの準備 」を参照してください。

表 2 XCP に関する特定の問題と回避方法 (続き)

CR ID	変更箇所	回避方法
6588650	XSCF のフェイルオーバーまたは XSCF のリブ ートの後、システムの DR が不可能となる場合 があります。	回避方法はありません。このバグに対するパッ チが入手可能かどうか確認してください。
6590858	サーバのインストール中にメインラインスイッ チを初めて投入したとき、次のエラーメッセー ジが表示されることがあります。 XSCFU hang-up is detected XSCF process down detected DB synchronization timeout	システム AC 電源をオフにしてから再度オンに してください。
6595501	無効な SMTP サーバが設定された後、 setemailreport CLI を使用して電子メール サービスを無効にしようとすると、最大で 30 分待たされることがあります。	CLI が完了するのを待ってください。システム の他の部分はこの待ち時間中にも正常に機能し ます。 • CLI は Ctrl+C キーにより中断できます。た だし、Ctrl+C キーを押した場合でも、処理 (emailreport の無効化) は完了します。 • showemailreport を使用すると、サービ スが無効になったかどうかを確認できます。
6598444	XSCF ファームウェアは自らを監視し、不整合 が検出されると XSCF を強制的にリブートしま す。	回避方法はありません。XSCF ユニットにリブ ートを完了させます。約 5 分以内で通常の動作 に戻ります。
6600060	XSCFU がドメイン用の信頼できる NTP ソース として機能しません。	すべてのドメインを、XSCFU 以外の NTP ソー スを使用するように設定してください。

Solaris に関する特定の問題と回避方法

表 3 に Solaris の問題とそれに対する有効な回避方法を示します。

表 3 Solaris に関する特定の問題と回避方法

CR ID	変更箇所	回避方法
5076574	大規模な M9000/M8000 ドメインでは、PCIe エラーが発生すると障害診断が無効になるおそれがあります。	次の行を含むファイル /etc/fm/fmd/fmd.conf を作成してください。 setprop client.buflim 40m setprop client.memlim 40m
6303418	1 つの SPARC Enterprise M9000 のドメインに対し、完全搭載のシステムボードが 11 枚以上ある場合、ストレスが高い状況ではハングアップすることがあります。	CPU スレッドの数が 170 を超えないようにしてください。 Solaris OS の psradm (1M) コマンドを使用して余分な CPU スレッドをオフラインにし、CPU スレッドの数を 1CPU コアあたり 1 つに制限してください。たとえば、すべての奇数の CPU スレッドをオフラインにするなどです。 このバグは Solaris 10 8/07 では修正済みです。
6348554	以下のカードで cfigadm -c disconnect コマンドを使用すると、コマンドがハングアップするおそれがあります。 <ul style="list-style-type: none">• SG-XPCIE2FC-QF4 Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Dual-Port Fibre Channel PCI-E HBA• SG-XPCIE1FC-QF4 Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Single-Port Fibre Channel PCI-E HBA• SG-XPCI2FC-QF4 Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Dual-Port Fibre Channel PCI-X HBA• SG-XPCI1FC-QF4 Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Single-Port Fibre Channel PCI-X HBA	影響のあるカードでは、cfigadm -c disconnect を実行しないようにしてください。

表 3 Solaris に関する特定の問題と回避方法 (続き)

CR ID	変更箇所	回避方法
6459540	DAT72 内蔵テープドライブがテープの処理中にタイムアウトすることがあります。 また、デバイスがシステムに QIC ドライブとして識別されることもあります。	以下の定義を、/kernel/drv/st.conf に追加してください。 <pre>tape-config-list= "SEAGATE DAT DAT72-000", "SEAGATE_DAT DAT72-000", "SEAGATE_DAT DAT72-000"; SEAGATE_DAT DAT72-000= 1,0x34,0,0x9639,4,0x00,0x8c,0x8c, 0x8c,3;</pre> "SEAGATE DAT と DAT72-00 の間には半角スペースが 4 つ必要です。
6472153	SPARC Enterprise M8000/M9000 sun4u サーバ以外のサーバ上に Solaris フラッシュアーカイブを作成し、それを SPARC Enterprise M8000/M9000 sun4u サーバにインストールすると、コンソールの TTY フラグが正しく設定されません。これは、コンソールのハングを引き起こすことがあります。	Solaris フラッシュアーカイブから Solaris OS をインストールした直後に SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバに telnet で入り、コンソールの TTY フラグを以下のようにリセットします。 <pre># sttydefs -r console # sttydefs -a console -i "9600 hupcl opost onlcr crtscts" -f "9600"</pre> この作業は 1 回だけ実行してください。
6485555	競合状態により、オンボードの Gigabit Ethernet NVRAM に障害が発生します。	NVRAM に障害が発生している場合、デバイスはネットワークデバイスとして認識されません。サービス担当員に問い合わせ、FRU を交換してください。
6498283	ドメインで psradm 操作の実行中に、DR の deleteboard コマンドを使用すると、システムがパニックすることがあります。	回避方法はありません。このバグに対するパッチが入手可能かどうか確認してください。 このバグは Solaris 10 8/07 では修正済みです。
6508432	偽の PCIe エラー (修正可能なもの) が FMA エラーログに大量に記録されることがあります。	このようなエラーをマスクするには、/etc/system に次のエントリを追加し、システムをリブートします。 <pre>set pcie:pcie_aer_ce_mask = 0x2001</pre> このバグは Solaris 10 8/07 では修正済みです。
6510779	大規模なシングルドメイン構成上で、システムが誤って非常に高い負荷平均を報告することがあります。	回避方法はありません。このバグに対するパッチが入手可能かどうか確認してください。

表 3 Solaris に関する特定の問題と回避方法 (続き)

CR ID	変更箇所	回避方法
6510861	PCIe Dual-Port Ultra320 SCSI コントローラカード (SG- (X) PCIE2SCSIU320Z) を使用しているとき、PCIe の修正可能なエラーによって Solaris のパニックが発生します。	この問題を回避するには、次のエントリを /etc/system に追加してください。 <pre>set pcie:pcie_aer_ce_mask = 0x31c1</pre> <p>このバグは Solaris 10 8/07 では修正済みです。</p>
6522017	同じドメインで DR と ZFS の両方を使用することはできません。	ZFS ARC の最大サイズを小さくしてください。詳細については、Sun Service にお問合せください。
6527781	2 つのドメイン間を DVD/DAT ドライブを移動するときに、cfgadm コマンドで障害が発生します。	回避方法はありません。DVD/ テープドライブを再構成するために、問題が検出されたドメインで <code>reboot -r</code> を実行してください。 このバグは Solaris 10 8/07 では修正済みです。
6527811	XSCF 上で showhardconf(8) コマンドを使用すると、PCI ホットプラグを使用して PCI ボックスが設定されていても、PCI ボックスにインストールされている PCI カード情報を表示することができません。	回避方法はありません。PCI ボックス内の各 PCI カードが PCI ホットプラグを使用して設定されていれば、PCI カード情報は正しく表示されます。
6530178	DR の addboard コマンドがハングする場合があります。問題が検出されると、それ以上の DR 操作はブロックされます。復旧にはドメインのリポートが必要です。	回避方法はありません。このバグに対するパッチが入手可能かどうか確認してください。 このバグは Solaris 10 8/07 では修正済みです。
6531036	boot net によるインストール後に、エラーメッセージ <code>network initialization failed</code> が繰り返し表示されます。	回避方法はありません。
6534471	通常の操作中に、システムがパニックまたはトラップすることがあります。	次の /etc/system パラメータが正しいことを確認し、システムをリポートします。 <pre>set heaplp_use_stlb=0</pre> <p>このバグは Solaris 10 8/07 では修正済みです。</p>
6539084	ドメインに Sun Quad GbE UTP x8 PCIe (X4447A-Z) が存在する場合には、リポート中にドメインのパニックが発生する確率は低くなります。 この欠陥は、Solaris 10 11/06 のみに発生します。	回避方法はありません。このバグに対するパッチが入手可能かどうか確認してください。

表 3 Solaris に関する特定の問題と回避方法 (続き)

CR ID	変更箇所	回避方法
6539909	<p>boot net install コマンドを使用して Solaris OS をインストールしているとき、ネットワークアクセスに以下の I/O カードを使用しないでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z/X4447A-Z, PCIe Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z/X1027A-Z, PCIe Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP 	<p>Solaris 10 11/06 を実行している場合は、代替タイプのネットワークカードまたはオンボードのネットワークデバイスを使用し、ネットワーク経由で Solaris OS をインストールしてください。</p> <p>この不具合は Solaris 10 8/07 では発生しません。</p>
6545685	<p>電源投入自己テスト (POST) で修正可能なメモリエラー (CE) が検出された場合、ドメインは誤って 4DIMM または 8DIMM に縮退することがあります。</p>	<p>/etc/system で次のように設定し、使用されるメモリ巡回タイムアウト値を増やしてから、システムをリブートします。</p> <pre>set mc-opl:mc_max_rewrite_loop = 20000</pre>
6546188	<p>以下のカード上でホットプラグ (cfgadm) および DR 操作 (addboard および deleteboard) を実行すると、システムがパニックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	<p>回避方法はありません。このバグに対するパッチが入手可能かどうか確認してください。</p>
6551356	<p>これまで未設定だったカードを設定するために hotplug (cfgadm) を実行すると、システムがパニックします。システムがパニックする直前に、「警告: PCI 拡張 ROM にアクセスできません」というメッセージがコンソール上に表示されます。この不具合によって、以下のカードが影響を受けます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	<p>I/O カードを取り外すために <code>cfgadm -c unconfigure</code> を使用しないでください。カードを完全に取り外すには、<code>cfgadm -c disconnect</code> を使用します。10 分以上待つてから、<code>cfgadm -c configure</code> コマンドを使用してカードの設定をドメインに戻すことができます。</p>

表 3 Solaris に関する特定の問題と回避方法 (続き)

CR ID	変更箇所	回避方法
6556742	DR 時に DiskSuite が metadb を読めない場合、システムがパニックします。このバグの影響を受けるカードは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • SG-XPCIE2FC-QF4, 4Gb PCI-e Dual-Port Fibre Channel HBA • SG-XPCIE1FC-QF4, 4Gb PCI-e Single-Port Fibre Channel HBA • SG-XPCI2FC-QF4, 4Gb PCI-X Dual-Port Fibre Channel HBA • SG-XPCI1FC-QF4, 4Gb PCI-X Single-Port Fibre Channel HBA 	metadb の複製コピーに別のホストバスアダプターを介してアクセス可能であれば、パニックは回避できます。あるいは、パッチ 125166-06 を適用できます。
6559504	以下のカードを使用すると、コンソール上に、「nxge: NOTICE: nxge_ipp_eccue_valid_check: rd_ptr = nnn wr_ptr = nnn」という形式のメッセージが表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	これらのメッセージは無視して差し支えありません。
6563785	以下のカードでホットプラグ操作を行った場合、カードを切断してその直後に再接続すると、ホットプラグ操作が失敗することがあります。 <ul style="list-style-type: none"> • SG-XPCIE2SCSIU320Z Sun StorageTek PCI-E Dual-Port Ultra320 SCSI HBA • SGXPCI2SCSILM320-Z Sun StorageTek PCI Dual-Port Ultra320 SCSI HBA 	カードを切断した後、数秒待つてから再接続してください。
6564332	Sun Crypto Accelerator (SCA) 6000 カードでホットプラグ操作を行うと、SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバがパニックまたはハングするおそれがあります。	SCA6000 ドライバのバージョン 1.0 は、ホットプラグをサポートしていません。ホットプラグは実行しないでください。SCA6000 ドライバおよびファームウェアのバージョン 1.1 の場合、必要なブートストラップファームウェアのアップグレードを行うと、ホットプラグ操作が可能になります。
6564934	以下のネットワークカードを使用しているときにカーネルメモリを搭載したボードに対して DR deleteboard 操作を実行すると、接続が切れます。 <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	DR 操作が完了してから、影響を受けたネットワークインターフェースを再設定してください。基本的なネットワーク設定手順についての詳細は、ifconfig の man page を参照してください。

表 3 Solaris に関する特定の問題と回避方法 (続き)

CR ID	変更箇所	回避方法
6568417	<p>CPU DR deleteboard 操作が正常に終了した後、次のネットワークインターフェースが使用されていると、システムがパニックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	<p>/etc/system に次の行を追加し、システムを再起動してください。</p> <pre>set ip:ip_soft_rings_cnt=0</pre>
6571370	<p>実験環境でストレス試験を実行した結果、以下のカードでデータ破壊が発生しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	<p>/etc/system に次の行を追加し、システムを再起動してください。</p> <pre>set nxge:nxge_rx_threshold_hi=0</pre>
6575970	<p>DR と XSFC のフェイルオーバーが不整合です。</p>	<p>DR 処理の進行中は、XSFC フェイルオーバーを起動しないでください。DR 処理が終了するのを待ってから、フェイルオーバーを開始します。先にフェイルオーバーを開始した場合は、フェイルオーバーが終了してから、DR 処理を開始します。</p>
6583035	<p>CMU をホットプラグするために addfru コマンドまたは replacefru コマンドを使用した後、DR のために使用できないボードに関する誤ったメッセージが表示され、以降の DR 処理が失敗することがあります。</p>	<p>addfru および replacefru コマンドを実行するときは、診断テストを必ず実行してください。addfru/ の実行時に診断テストの実行を忘れた場合には、testsb を実行して CMU をテストするか、deletefru コマンドを実行して CMU/IOU を減設してから、診断テスト付きで addfru コマンドを実行します。</p>
6584984	<p>-w を指定して busstat (1M) コマンドを実行すると、ドメインが再起動されることがあります。</p>	<p>回避方法はありません。-w オプションを指定して busstat (1M) コマンドを pcmu_p で実行しないでください。</p>

表 3 Solaris に関する特定の問題と回避方法 (続き)

CR ID	変更箇所	回避方法
6588555	XSCF のフェイルオーバー中に永続メモリ DR 処理を実行すると、ドメインがパニックすることがあります。	DR 処理の進行中は、XSFC フェイルオーバーを起動しないでください。DR 処理が終了するのを待ってから、フェイルオーバーを開始します。先にフェイルオーバーを開始した場合は、フェイルオーバーが終了してから、DR 処理を開始します。
6589833	SAP プロセスが Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Dual-Port Fibre Channel PCI-E HBA カード (SG-XPCIE2FC-QF4) に接続された記憶装置にアクセスしようとしているときにこのカードを追加しようとする、DR addboard コマンドによりシステムがハングするおそれがあります。ネットワークトラフィックが多い状態で以下のカードを使用していると、システムがハングする危険が大きくなります。 <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	回避方法はありません。このバグに対するパッチが入手可能かどうか確認してください。
6592302	DR 操作が失敗すると、メモリが一部未設定のままになります。	復旧には、addboard -d コマンドを使用してボードをドメインに戻してから、deleteboard コマンドを再実行します。

ターゲットボードのカーネルメモリの識別

1. XSCF にログインします。
2. 次のコマンドを入力します。

```
XSCF> - showdevices -d domain_id
```

次の例は、showdevices -d コマンドの出力を示したもので、0 は domain_id です。

```
XSCF> showdevices -d 0

...

Memory:
-----

      board      perm      base      domain  target deleted remaining
DID XSB  mem MB  mem MB  address  mem MB  XSB  mem MB  mem MB
00 00-0   8192     0 0x0000000000000000    24576
00 00-2   8192   1674 0x000003c000000000    24576
00 00-3   8192     0 0x0000034000000000    24576

...
```

4 列目の「perm mem MB」のエントリの値がゼロ以外の場合、カーネルメモリが存在することを示します。

この例は、1674 MB のカーネルメモリが 00-2 にあることを示しています。

ボードにカーネルメモリがある場合に deleteboard コマンドまたは moveboard コマンドを実行すると、次の通知が表示されます。

```
System may be temporarily suspended, proceed? [y|n]:
```

XCP 1050 へのアップグレードの準備

アップグレード前に実行することが必要な手順が2つあります。

1. lan#0 インターフェースおよび lan#1 インターフェース (フェイルオーバーインターフェース) 上で設定されたルートをすべて削除する。

注 - ネットワーク設定がまったく変更されていないければ、`applynetwork -n` コマンドは実行できません。ホスト名を現状に正しくリセットすると (`sethostname`)、コマンドの実行が求められます。

以下の例は、削除が必要な2つのルートを示しています。

```
XSCF> applynetwork -n
The following network settings will be applied:
xscf#0 hostname      :m8000-0
xscf#1 hostname      :m8000-1
DNS domain name      :sun.com
nameserver            :100.200.300.400

interface            :xscf#0-lan#0
status                :up
IP address            :100.200.300.77
netmask               :255.255.254.0
route                 :-n 0.0.0.0 -m 0.0.0.0 -g 100.200.300.1

interface            :xscf#0-lan#1
status                :down
IP address            :
netmask               :
route                 :

interface            :xscf#0-if
status                :down
IP address            :
netmask               :

interface            :lan#0
status                :down
IP address            :
netmask               :
route                 :-n 0.0.0.0 -m 0.0.0.0 -g 100.200.300.1
route                 :-n 0.0.0.0 -m 0.0.0.0 -g 100.200.300.2
```

```

interface      :xscf#1-lan#0
status         :down
IP address     :
netmask       :
route         :

interface      :xscf#1-lan#1
status         :down
IP address     :
netmask       :
route         :

interface      :xscf#1-if
status         :down
IP address     :
netmask       :

interface      :lan#1
status         :down
IP address     :
netmask       :
route         :

The XSCF will be reset. Continue? [y|n] :n
XSCF> setroute -c del -n 0.0.0.0 -m 0.0.0.0 -g 100.200.300.2 lan#0
XSCF> setroute -c del -n 0.0.0.0 -m 0.0.0.0 -g 100.200.300.1 lan#0
XSCF> applynetwork

```

最後の `applynetwork` には、リセットと処理の継続のため「y」を応答します。

2. 「admin」という名前のアカウントをすべて削除してください。

すべての XSCF アカウントの一覧を表示するには `showuser -lu` コマンドを使用してください。XCP 1050 へのアップグレードに先立って、`admin` という名前のアカウントをすべて削除することが必要です。このアカウント名は XCP 1050 以降で予約されています。アカウントの削除には `deleteuser` コマンドを使用します。

注 `-admin` アカウントの詳細については、表 4, 23 ページの「ソフトウェアマニュアルの変更予定」を参照してください。

XCP 1050 へのアップグレード

注 - 「引継ぎ IP アドレス」 経由で XSCF ユニットにアクセスしないでください。

注 -XSCF のリセット時に、LAN 接続が切断されます。XCP アップグレード手順を簡素化するため、XSCF のシリアル接続を使用することを推奨します。

1. プラットフォーム管理権限があることを確認の上、アカウント上の XSCF#0 にログインします。
2. `showstatus` コマンドを使用して、障害のあるコンポーネントや設定解除されたコンポーネントがないことを確認します。

```
XSCF> showstatus
```

システムの初期化時に障害が見つからなければ、`showstatus` プロンプトが返ります。リストに何かが表示された場合、次の手順に進む前に、公認の保守担当者に連絡してください。

3. すべてのドメインの電源をオフにします。

```
XSCF> poweroff -a
```

4. すべてのドメインが停止していることを確認します。

```
XSCF> showlogs power
```

5. オペレーターパネルのキーの位置を `Locked` から `Service` にします。
6. 今後の参考情報としてシステムの状態のアーカイブをとるため、XSCF スナップショットを収集します。

```
XSCF> snapshot -t user@host:directory
```

7. `getflashimage` コマンドを使用して、XCP 1050 アップグレードイメージをアップロードします。

```
XSCF> getflashimage http://server.domain.com/XCP1050/images/DCXCP1050.tar.gz
```

XSCFU#0 上の BUI を使用することにより、XCP 1050 アップグレードイメージをアップロードすることができます。

8. `flashupdate (8)` コマンドを使用して、ファームウェアを更新します。



注意 -Flashupdate は1つのバンクを更新し、XSCF をリセットしてから、次のバンクの更新を開始します。現用バンクと待機バンクがどちらも更新されていることを確認します。両方のバンクが XCP リビジョン 1050 を示している場合には、次の手順に進みます。

```
XSCF> flashupdate -c update -m xcp -s 1050
```

アップデートする XCP の版数を指定します。この例では 1050 です。

9. 更新の完了を確認します。

```
XSCF> showlogs event
```

XCSF_B#0 の更新中に異常が発生しないことを確認します。

10. XSCFU#0 の現用バンクと待機バンクの両方が更新後の XCP バージョンを表示していることを確認します。

```
XSCF> version -c xcp
```

```
XSCF#0 (Active )
XCP0 (Reserve): 1050
XCP1 (Current): 1050
XSCF#1 (Standby)
XCP0 (Reserve): 0000
XCP1 (Current): 0000
```

XSCF#0 の現用バンクと待機バンクが XCP リビジョン 1050 を示していない場合には、公認の保守担当者に連絡してください。

11. 新規に導入された「servicetag」機能が有効であることを確認します。

システムが XCP 104x から XCP 1050 にアップグレードされる時、新規に導入された「servicetag」機能は自動的に有効になりません。

- a. 「showservicetag」 CLI を使用することにより、「servicetag」機能のステータスを確認します。

```
XSCF> showservicetag
Disabled
```

- b. 現在無効になっている場合には、有効にすることが必要です。

```
XSCF> setservicetag -c enable
Settings will take effect the next time the XSCF is rebooted.
```

- c. 「servicetag」機能を有効にするには XSCF のリブートが必要です。

```
XSCF> rebootxscf
The XSCF will be reset. Continue? [y|n] :y
```

注 - サービスタグは Sun Service が使用します。富士通のお客様がサービスタグを有効にすることはできません。

- d. XSCF ファームウェアの準備が整うまで待ちます。

これは、XSCF 上の READY LED が連続点灯になっていること、またはシリアルコンソール上にメッセージ「XSCF Initialize Complete」の表示により確認できます。

12. サーバのすべての電源スイッチを 30 秒間オフにします。
13. 30 秒後、電源スイッチをオンに戻します。
14. XSCF ファームウェアの準備が整うまで待ちます。
これは、XSCF_B#0 と XSCF_B#1 上の READY LED がどちらも連続点灯になることから確認できます。
15. シリアル接続または LAN 接続を使用して、XSCFU#0 にログインします。
16. showlogs error -v および showstatus コマンドを使用することにより、異常の発生がないことを確認します。

```
XSCF> showlogs error -v
XSCF> showstatus
```

XSCF のハードウェア異常を検出した場合には、公認の保守担当者に連絡してください。

17. インポートされた XCP イメージを確認し、再度更新します。

```
XSCF> flashupdate -c update -m xcp -s 1050
```

更新対象の XCP バージョンを指定します。この例では 1050 です。XSCF#1 が更新され、次に XSCF#0 が再度更新されます。

XSCF#0 のファームウェア更新が終了すると、XSCF#1 がアクティブになります。

18. シリアル接続または LAN 接続を使用して、XSCFU#1 にログインします。
19. `showlogs event` コマンドを使用することにより、更新の完了を確認します。

```
XSCF> showlogs event
```

更新時に異常が検出されなかったことを確認します。

20. XSCFU#0 の現用バンクと待機バンクの両方が更新後の XCP バージョンを表示していることを確認します。

```
XSCF> version -c xcp
```

```
XSCF#1 (Active )
XCP0 (Reserve): 1050
XCP1 (Current): 1050
XSCF#0 (Standby)
XCP0 (Reserve): 1050
XCP1 (Current): 1050
```

XSCF#0 の現用バンクと待機バンクが XCP リビジョン 1050 を示していない場合には、公認の保守担当者に連絡してください。

21. XSCF の切り替えが正常であることを確認します。

```
XSCF> switchscf -t Standby
```

```
The XSCF unit switch between the Active and Standby states.
Continue? [y|n] :y
```

- a. XSCFU_B#1 上の READY LED が連続点灯であれば、シリアル接続または LAN 接続を介して XSCFU#0 にログインします。
- b. 次のコマンドを使用して、XSCF の切り替えを確認してください。

```
XSCF> showhardconf
```

XSCF#1 が現在は待機であり、XSCF#0 がアクティブになったことを確認します。

```
XSCF> showlogs error
```

手順 16 での確認以降、新規のエラーが記録されていないことを確認します。

```
XSCF> showlogs event
```

「XSCFU entered active state from standby state (XSCFU が待機状態からアクティブ状態になりました)」というメッセージを確認します。

```
XSCF> showstatus
```

「No failures found in System Initialization (システム初期化時に障害は検出されません)」というメッセージを確認します。

22. すべてのドメインの電源をオンにしてください。

```
XSCF> poweron -a
```

23. XSCFU#0 にログインし、すべてのドメインが正常に起動したことを確認します。

```
XSCF> showlogs power
```

24. 新規のエラーが発生していないことを確認します。

```
XSCF> showlogs error
```

- 異常が検出された場合には、適切な処置を実行し、公認の保守担当者に連絡してください。
- 異常が検出されなかった場合は、[手順 25](#)に進みます。

25. オペレーターパネルのキースイッチ位置を Service から Lock に戻します。

WAN ブートサーバからのブート

WAN ブートサーバから SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバをブートできるようにするには、次の手順を実行します。

1. WAN ブートサーバに Solaris 10 11/06 OS をインストールします。
2. 本リリースから、インストールサーバ上の適切な場所に実行可能ファイル wanboot をコピーします。詳しい方法については、『Solaris 10 インストレーションガイド：ネットワークベースのインストレーション』または次の URL を参照してください。

<http://docs.sun.com/app/docs/doc/817-5504/6mkv4nh65?a=view>

3. Solaris 10 11/06 OS から WAN ブート miniroot を作成します。詳しい方法については、次の URL を参照してください。

<http://docs.sun.com/app/docs/doc/817-5504/6mkv4nh63?a=view>

実行可能ファイル wanboot をアップグレードしないと、SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバは次のようなメッセージを表示して、パニックします。

```
krtld:load_exec:fail to expand cpu/$CPU
krtld:error during initial load/link phase
panic - boot:exitto64 returned from client program
```

WAN ブートの詳細については、<http://docs.sun.com/app/docs/doc/817-5504/6mkv4nh5i?a=view> を参照してください。

getflashimage の簡易版 man page

XCP 105x ではコマンド getflashimage を使用して、XSCF Web の代わりにファームウェアイメージをダウンロードすることができます。

ソフトウェアマニュアルの変更予定

この項には、ドキュメントが出版された後に知られるようになった、ソフトウェアマニュアルの最新情報が記載されています。

表 4 ソフトウェアマニュアルの変更予定

マニュアル	ページ番号	変更内容
SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバに関するすべてのマニ ュアル		すべての DVD という表記は、CD-RW/DVD-RW に読み替えてください。
SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF ユーザーズガイ ド	9-5	XSCF Web がサポートする Web ブラウザには次のものがあります。 <ul style="list-style-type: none">• Microsoft Internet Explorer 6.0 以降• Firefox 2.0 以降• Mozilla 1.7 以降• Netscape Navigator 7.1 以降
SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF ユーザーズガイ ド	2-2	「XSCF Shell によるセットアップの要約」の項。次の注を追加します。 <p>注：標準的なデフォルトのログインのほかに、SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバでは、<i>admin</i> と呼ばれる一時的ログインが可能な状態で出荷されます。これにより、シリアルポートを介したリモート初期ログインが可能になります。その権限は <i>useradmin</i> 限定であり、変更はできません。標準の UNIX ユーザー名 / パスワード認証または SSH 公開鍵認証を使用して一時 <i>admin</i> としてログインすることはできません。このログインにパスワードはなく、またパスワードをこのログインのために追加することもできません。</p> <p>デフォルトのユーザーとしてログインした後や、一時 <i>admin</i> としてのログインにより有効なパスワードと権限を与えられた最初のユーザーが登録された後には、一時 <i>admin</i> アカウントは無効となります。</p> <p>デフォルトのログインが使用される前に一時 <i>admin</i> としてログインできない場合には、次のコマンドを実行することにより、他の誰かが上記の操作を実行していないか確認してください。</p> <pre>showuser -l</pre>

表 4 ソフトウェアマニュアルの変更予定 (続き)

マニュアル	ページ番号	変更内容
SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF ユーザーズガイド	D-5	<p>「Troubleshooting XSCF and FAQ」のよくある質問 (FAQ)</p> <p>OS ダンプのオプションは「request」ではなく「panic」です。</p> <p>誤記：</p> <p>1. まず、XSCF シェルから panic オプションで reset(8) コマンドを実行します。</p>
SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF ユーザーズガイド	2	<p>「Solaris OS ソフトウェア」の項。次の注が追加されました。</p> <p>注:XSCF ファームウェアでは、すべてのドメインに SUNWscmmr および SUNWscmu.u パッケージが必要です。Solaris OS の Core System、Reduced Network、および Minimal System バージョンの場合、これらパッケージは自動的にインストールされません。これらパッケージがインストールされていないすべてのドメインにインストールする必要があります。</p>
SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF ユーザーズガイド	8	<p>「システムへのログイン」の項。次の注を追加します。</p> <p>注：標準的なデフォルトのログインのほかに、SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバでは、<i>admin</i> と呼ばれる一時的ログインが可能な状態で出荷されます。これにより、シリアルポートを介したりリモート初期ログインが可能になります。その権限は <i>useradmin</i> 限定であり、変更はできません。標準の UNIX ユーザー名 / パスワード認証または SSH 公開鍵認証を使用して一時 <i>admin</i> としてログインすることはできません。このログインにパスワードはなく、またパスワードをこのログインのために追加することもできません。</p> <p>デフォルトのユーザーとしてログインした後や、一時 <i>admin</i> としてのログインにより有効なパスワードと権限を与えられた最初のユーザーが登録された後には、一時 <i>admin</i> アカウントは無効となります。</p> <p>デフォルトのログインが使用される前に一時 <i>admin</i> としてログインできない場合には、次のコマンドを実行することにより、他の誰かが上記の操作を実行していないか確認してください。</p> <p><code>showuser -l</code></p>

表 4 ソフトウェアマニュアルの変更予定 (続き)

マニュアル	ページ番号	変更内容
SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF ユーザーズガイ ド	66	<p>「設定監査」の項。「ファイルツールの監査」の終わりに注を追加します。</p> <p>注: この章ではアーカイブされたログファイルをセットアップする方法について説明します。管理者とサービスプロバイダーは、SP Security (SUNWspec) Package を使用することにより、このログファイルを表示することができます。使用サーバにアーカイブされた XSCF 監査ログファイルを表示するには、<code>viewauditapp(8)</code> および <code>mergeaudit(8)</code> オフプラットフォーム監査ファイルビューワーを使用します。</p>
SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF リファレンスマ ニュアル	<code>switchscf(8)</code> <code>manpage</code>	<p><code>switchscf(8)</code> コマンドは、 <code>-n/-q/-y</code> オプションをサポートするようになりました。 このサポートの結果、「形式」は次のように変更されます。</p> <pre>switchscf [[-q] -{y n}] -t {Active Standby} [-f] switchscf -h</pre> <p>新しいオプションのそれぞれの意味は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> -n: すべてのプロンプトに自動的に「n」(no) を応答します。 -q: プロンプトを含め、<code>stdout</code> へのすべてのメッセージを禁止します。 -y: すべてのプロンプトに自動的に「y」(yes) を応答します。

